

「みんなのつながり」はコロナ禍に負けない！

つながる通信

第 3 号

令和3年1月1日発行

発行：名寄市社会福祉協議会

名寄市西1条南12丁目

総合福祉センター内

TEL：01654-3-9862/FAX：01654-3-9949

共催：名寄市町内会連合会

名寄市民生委員児童委員連絡協議会

回 覧

新型コロナウイルス感染症の影響によりこれまでと同様の地域活動が思うように行えないなか、つながりを失うことなく、今後もみなさんにとって暮らしやすい地域をつくっていただけるよう、名寄市内外の取り組みを紹介した「つながる通信」を毎月発行します。

これからのみなさんの地域での活動にお役立ていただければ幸いです。

★名寄市内の活動紹介

風連中央区町内会

風連中央区町内会では毎年夏にふうれん地域交流センターで「家族交流会パーティー」を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から今年は残念ながら中止としました。

「家族交流会パーティー」はお子さんからご高齢の方まで100名を超える会員が一同に集まり、食事や歓談、ゲームを楽しむイベントとして町内に定着していました。

また、今年度は敬老会も取りやめとなり例年参加されている方から、若い方や地域の方々との交流を楽しみにしていたので、その場が無くなり寂しいとの声が上がっていました。

そこで、役員会では別の形で何かできないかと模索する中、冬季に予定していた「地域支えあい事業」を夏季にも行うことで、一人暮らし高齢者の訪問見守りを増やすこととしました。

この事業は28世帯の一人暮らし高齢者宅を役員と民生委員児童委員が回り、9月にはカルピスセット、12月にはケーキをプレゼントするもので、少しでも孤独感を解消し、地域でのつながりを絶やさないことを目的とした活動です。町内会ネットワーク事業と歳末地域支えあい事業の助成金を活用したプレゼントを渡しながら、「お元気ですか」の声掛けを行いました。訪問を受けた方は大変感激された様子で喜ばれました。



昨年の家族交流会の様子



高齢者宅への訪問の様子

訪問時にはマスクを着用し、感染防止に気を配りながらの対応となりましたが、久々の訪問にニコニコと笑みもこぼれました。

来年度は、ぜひ例年通り「家族交流会パーティー」や「敬老会」を行いたいと役員会でも確認し、新型コロナウイルス感染症の一刻も早い終息を願うばかりです。

北海道民生委員児童委員連盟

北海道民生委員児童委員連盟では、民生委員児童委員活動の充実のため、研修・研究協議会の開催、広報や資料などの発行により、関係する情報を提供し、さらに全道的福祉課題を見据えての調査を行い、全国的な関係組織との連携あるいは市町村民生委員児童委員協議会との連絡調整にあたっています。

今回は、新型コロナウイルスの影響下において、地域の課題に対して独自に行われた活動について紹介させていただきます。

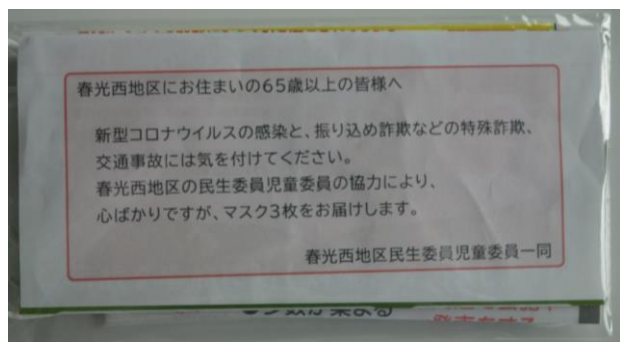
旭川市春光西地区民生委員児童委員協議会(会長 佐川徹氏)では、5月16日、担当地区内に住む65歳以上の高齢者約1,500人(約1,000世帯)に不織布マスクを配る活動を行いました。一人あたりマスク3枚と、特殊詐欺や交通事故への注意をよびかけるチラシや、感染症予防に関するチラシをパッケージしました。

当日は委員17名が手分けをして高齢者宅を訪問。安否確認や特殊詐欺などの注意喚起も兼ねるので、原則的には手渡しとし、当日に9割の高齢者世帯に配布することができました。不在だった世帯は数回訪問。概ね3日間で配布を終えています。

マスクの購入費用30万円は、同地区内で集めた空き缶などを廃品回収に出して得た収益を充てました。この活動のきっかけは、東日本大震災が発生した平成23年まで遡ります。当時、自分たちに何かできないかと考え、担当地区は元より旭川市内に呼びかけベルマークの回収活動を行い、多くの協力により集めたベルマークを被災地支援のために寄贈しました。ベルマークの回収活動に協力いただいた市民に恩返しをしたい。そこで始めたのが、空き缶などの廃品回収でした。この活動の結果、これまで高齢者施設に車いすを寄贈するなど、地域福祉の向上のためにその益金を充ててきました。

そのなかで起こったのが、新型コロナウイルスの感染拡大です。マスクが欲しくても店頭には並んでいない。マスクが手に入らないから必要な外出もできない。住民に大きな不安が広がりました。高齢者がドラッグストアに開店2時間も前から並んでいる光景を目の当たりにし、今自分たちにできることを考えた結果が、廃品回収の益金を活用したマスクの配布だったわけです。

この活動にはもうひとつ触れておかなければならない背景があります。それは地元警察署との日常的な協力関係です。「せっかく訪問するのだから、マスクの配布だけではもったいない」、そう思い立ち、地元警察署に趣旨を説明のうえ、特殊詐欺などの注意を呼びかけるチラシの提供を要請しました。地元警察署は、この活動の趣旨に即座に賛同。数種類のチラシの提供を受け、活動当日は集合場所にて謝辞と激励を受けました。旭川市民生委員児童委員連盟では、2つの地元警察署と、「高齢者の安全対策に関する協定」を独自で締結しています。高齢者の安否確認等、日常的に相互協力する関係性があったからこそ、スムーズな連携が図れたわけです。



この地区は、ひとり暮らしの高齢者世帯が約600世帯あり、外出の自粛を求められるなか、多くの高齢者が不安を抱えていました。マスクを受け取った高齢者から、多くの感謝の声が寄せられたそうです。昨今の情勢では、感染症予防のため人と人との物理的な距離は保たなければなりません、心の距離まで広げる必要はありません。民生委員児童委員と地域の高齢者が、お互いの存在とその尊さを改めて確認し合う、この活動にはそんな効果もあったかもしれません。

「つながる通信」は名寄社協ホームページやSNSでも発信しています。他にも様々な情報を発信していますので、ぜひご登録ください！！

ホームページ

